

第43号

一般社団法人  
日本音楽療法学会ニュース発行 一般社団法人日本音楽療法学会  
理事長 藤本 禮子 副理事長 土野 研治 副理事長 二俣 泉

事務局 〒105-0013 東京都港区浜松町 1-20-8 HK浜松町ビル 6階 TEL 03(5777)6220 FAX 03(5401)0337



## 自分のペースで一歩ずつ

日本音楽療法学会代議員  
上羽（糟谷）由香

2022年度の幕開け。どんな1年になるだろう。今年度、仕事に関しても家庭に関しても、また新たな挑戦のスタートである。思い返せばここ何年も新たな挑戦の連続で、安定という言葉には老後まで出会えないのではないだろうか。

苦勞を忘れやすい性質ではあるが、それでもここ数十年の間で私にとっての大きな挑戦は、大学教員職への着任と博士後期課程への進学だろう。米国留学から帰国して、「臨床」も「研究」も「教育」もどれもやりたい！それが目標だったが、1年足らずで運よく大学教員となり、そのまま14年間、音楽療法士養成教育に重点的に携わることとなった。一方で、十分な臨床経験や研究業績もないままに大学教員となった私は、心の奥底にずっと力不足という劣等感を抱えており、それが今に至るまでの私の原動力となったように思う。音楽療法士を志す学生たちとの日々は実に充実していたが、同時に、私自身も「留学して学んできたこと」に留まっていたはいけない、これからの音楽療法を見越して学生・卒業生を支援できる教員にならなければならないと思うようになった。

そして、今から10年前の36歳のこと。臨床と実習指導の経験から、音楽療法が良好に作用するケースでは注意機能に何らかの影響を与えているのではないかという「臨床的問い」をもった。しかし、それを立証するには神経発達について理解を深め、神経科学に根差した研究を行う必要があった。年齢のこともあり、新たな世界への挑戦に躊躇していた時。友人に、「30歳だったら博士課程に挑戦してたかな～」と迷いを口にすると、「でも50歳になったら『今40歳だったら…』ってきつと思うんよね」との言葉に、今が一歩を踏み出す時だと思えた。

勇気を出して飛び込んでみたものの、結局、論文完成まで8年を要した。この期間に、結婚と2児の出産、夫との遠距離生活、ワンオペ育児、高知移住と転職という人生における大きな出来事が次々と私に降りかかったのである。生活スタイルが次々と変化する状況下で、研究が長期間滞り、何を優先すべきか迷い、投げ出してしまうけれど諦めたくない気持ちが錯綜する日々だった。

だが、研究に参加してくれた子どもたちのことを考えると研究結果を世に出さなければという使命感はあった。とにかく論文は仕上げようと少しずつ執筆を進めたが、形になったかと思えば何度も大幅な改訂が求められた。下地のない分野に足を踏み入れたがために、脳がついていかず、精神的にも追い詰められた。生活に変化があっても影響を受けない夫の仕事・研究ぶりを見ては、焦って羨んで、時に嘔みつき、この期間には様々に複雑な思いと葛藤した。そして刻苦の末に論文受理の連絡を受けた時、明けない夜はなかった…と文字通り、全身が脱力した。

長い年月がかかったが、振り返ってみて思う。一時的に立ち止まってしまう時期があったとしても、それを完全にやめてしまわず、その時の自分にできることを、亀のような歩みで数ヶ月に1ミリでも進み続けていれば、いつかどこかに辿り着く、そしてそれが辿り着くべき「時」なのだろう。もしも私が家庭と仕事と研究をうまく並立できる器用な人間で、8年もかけずに論文を完成させていたら、昨年が「第1回」だった日野原賞の選考対象にはなっていない。そう考えると、あの悶々としていた時期は私にとって通過すべき道であり、順調には進まなかったからこそ受賞につながったことを思うと、これ以上ない勇気づけである。周囲の多くの支えがあったおかげで、すり足のような一歩を踏み出し続けてこられたことに感慨深さが募る。

最近、「音楽療法」に育ててもらっていることをよく思う。音楽療法に出逢っていなければ発揮されることのなかった私の力をうまく引き出し、困難を乗り越えさせ、更に人間的成長も導いてくれる。まるでクライアントにとっての音楽療法がそうであるように。そしてそれを深め掘り下げていこうとする過程とそこでの人との出逢いに、「人の一生」にも通ずる学びが多い。今思えば、20歳の音大生だった私と音楽療法を引き合せてくれたのが日野原先生の著書『音楽の癒しのちから』であったことは真に象徴的な出来事であったように思う。

臨床家としても研究者としてもまだまだ未熟だからこそ、私にできることは何かを考えつつ、その時々自分のペースで一歩ずつ、音楽で人々の健康や幸福を支援するという難解なライフワークに取り組んでいきたいと思う。

## 第22回日本音楽療法学会学術大会（広島）へのいざない

第22回日本音楽療法学会学術大会  
大会長 岩永 誠

2020年から続くコロナ禍は3年目となりました。オミクロン株の感染力は強く、第6波は第5波を大きく超えた感染者を出すこととなり、予断の許さない状況が続いています。音楽療法学会の学術大会も2年連続でオンラインでの開催となり、対面で語り合うことができなくなりました。学会員の皆様方の活動や生活も大きく様変わりをしたのではないのでしょうか。まさに、失われた2年です。早くコロナウィルスが収束をして、元通りとまではいかないまでも、普通の生活に戻りたいと思います。この夏にはコロナも収束をして、学術大会を開催することができ、対面での情報交換ができるようになることを願うばかりです。

2022年の第22回日本音楽療法学会学術大会は、2022年9月16日（金）～18日（日）に広島での開催を予定しています。この頃までには、コロナウィルスも収束するものと信じて、対面での学術大会の開催ができるよう準備を進めておりますが、感染状況次第ではオンデマンドの開催に変更になるかもしれません。変更になった際には、ご理解いただきますようお願いいたします。

中国支部が学術大会を担当するのは3度目です。前回の第13回学術大会では、「音楽療法の役割を再考する ～個のつながりや地域とのつながりを通して～」をテーマとして、音楽を通しての「つながり」の多様性と可能性について考えました。その後も数多くの災害が日本を襲い、地域でのつながりや地域とのつながりはさらに重要になったのではないかと考えております。そこで第22回学術大会は「コミュニティでの共生を支える ～音楽療法の役割を考える～」をテーマとして、コミュニティにおける音楽療法の役割について考えたいと思っております。地域に根ざし、地域のニーズを踏まえた音楽療法を行うために、どのような活動ができるのか、また、どのように地域と協働できるかは、今後さらに重要な課題になるものと考えております。

第22回学術大会では、コミュニティにおける音楽療法を主軸として、特別講演者に地域包括ケアシステム研究の第一人者である田中滋先生をお招きして、地域包括医療についてのお話をさせていただきます。また、会場での録画映像の視聴となりますが、コミュニティ音楽療法の権威であるブリュンユルフ・スティエグ先生からコミュニティ音楽療法についての基調講演をさせていただきます。この基調講演を受けて、大会企画シンポジウム「コミュニティでの音楽療法の役割を考える」において、各地で行われてきたコミュニティにおける音楽療法の事例を取り上げ、日本におけるコミュニティ音楽療法のあり方について考えたいと思っております。このほか、教育講演として、肥後功一先生から子どもの情緒や言葉、関係性の育ちと支援についてお話していただく予定です。また、講習会はワークショップを対面で、講義をオンデマンド形式で行う予定です。多くの学会員の方々の今後の活動に役立つ内容となるべく、企画しておりますので、ぜひご参加いただければと思います。

大会の行われる会場は、広島市の中心部にある平和記念公園内にある広島国際会議場です。とてもアクセスの良いところにあります。隣の建物が広島平和記念資料館で、近くに原爆ドームがあります。また、会場の近くから宮島行きのシーバスが運行されていますので、瀬戸内海をクルージングしたのちに宮島観光を楽しんでいただけるのではないかと思います。ちょっと足を伸ばせば、近隣の観光地を楽しむこともできますので、大会後にお楽しみいただければと思います。

新型コロナウイルスの感染状況によっては開催形式を急遽変更することもあります。どのような形式になろうが、学術大会としての情報をしっかり発信していきたいと思っております。皆様方のたくさんのご参加・ご発表を、関係者一同こころよりお待ちしております。

# ■ 国家資格推進委員会報告 ■

国家資格推進委員会  
委員長 藤本 禮子

学会ニュース第42号以降の国家資格推進委員会の活動について、1. 国家資格化に向けた国会議員等との活動 2. 会員の皆様への国家資格化情報の共有活動 3. 音楽療法の社会的認知を進める活動 に分けて報告いたします。

## 1. 国家資格化に向けた国会議員等との活動

2021年11月11日、参議院議員会館佐々木さやか議員事務所にて秋野公造議員、佐々木さやか議員と会いいたしました。学会から藤本禮子理事長、土野研治副理事長、二俣泉副理事長、広田和加子事務局長が出席しました。会見では両議員から、「11月5日の、文部科学省、厚生労働省、参議院法制局など20名との会見に於いて、①国家資格化への法文案は文部科学省と厚生労働省の共同で所管すること、②厚生労働省から法文案中の名称は“音楽療法士”では法律化は不可能であると伝えられている」ことの2点が伝えられました。

12月2日 秋野公造議員事務所にて、「音楽療法士」の名称に代わる会員からの声として「公認音楽士（師）」を届けました。今後検討されることとなります。

12月6日 上川陽子衆議院議員に学会顧問を依頼しました。上川議員は快く承諾くださいました。

## 2. 国家資格化の情報共有の活動

2021年11月21日 学会理事に向け、法文案についての勉強会をオンラインで開催しました。

11月23日 会員に向け、2回目の国家資格化勉強会をオンラインで開催しました。参加者は369名でした。終了後その動画は、会員限定で3月31日まで配信されました。当日は、上羽（糟谷）由香代議員の司会のもとで、以下のように進められました。

- ①国家資格化に向けての取り組みと課題（秋野公造議員）
- ②音楽療法士国家資格化第1次から第2次（今回）まで18年間の流れ・国家資格法作成への道のり（藤本禮子理事長）
- ③他職種の国家資格化への経緯（猪之良高明常任理事）
- ④国家資格としての音楽療法士の活動領域（村林信行常任理事）
- ⑤法文案のコンセプト（二俣泉副理事長）

その後、チャットで会員から寄せられた多くの質問に対して、登壇者が時間の許す限り答えました。主な質問は、Q & A -4- としてホームページに掲載する予定です。

## 3. 音楽療法の社会認知を進める活動

2022年3月30日、東京 Hakuju Hall において、当学会顧問鴨下一郎氏、当学会理事湯川れい子氏主催による「Music Therapy Concert vol.1」が開催され、当学会は共催として協力いたしました。当日は約230名のご来場があり、鴨下一郎氏、湯川れい子氏のトークで始まり、大貫祐一郎氏（ピアノ）、ナターシャ・グジー氏（歌手、バンドゥーラ奏者）、宮原浩暢氏（バリトン）が演奏されました。コンサートの中盤では、土野研治副理事長より当学会の活動について説明があり、音楽療法に対するニーズが広がっていることや音楽療法士の国家資格化を目指した活動について述べられました。

今回は1回目のコンサートとして東京で開催されました。鴨下一郎氏から今後は全国様々な地域で開催し、音楽療法を幅広く知って頂くコンサートにしていきたいと述べられました。

国家資格化の活動は国会議員、会員の皆様の協力により一歩ずつ進めています。

今回の3つ目の報告、「Music Therapy Concert」は、これまでの国家資格化の活動に加え、「音楽療法は有効であり、必要である」という社会の声を結集することを意図した活動です。

国家資格推進委員会は、これまで進めてきた国家資格化のための法文案の検討に並行して社会の声を結集する活動を展開してまいります。この活動には、会員の皆様に多くの協力をお願いすることとなります。具体的な内容は改めてお知らせいたします。どうぞお力をお貸しくくださいますようお願いいたします。

## ■ 日本音楽療法学会2022年度研修・講習会のご案内 ■

研修・講習委員会  
委員長 高山 仁

新年2022年の幕開け、新型コロナウイルス感染症は一時収束の兆しをみせたものの、新しい変異株があらわれ、その波は例外なく日本にも押し寄せました。2年以上も続くこの状況は、もはや「日常」になりつつあります。会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。なかなか音楽療法の仕事も思うようにいかず、実践現場を失い、その結果「資格更新」にも新たな困難が生じているようです。

このような状況において、私が懸念していることの一つに「子どもたちの育ち」があります。マスク着用の弊害として、乳幼児期の顔認知機能（相手の表情を読む）の低下や、言葉の発達の遅れが指摘されています。皆様も周知の通り、子どもの発達には臨界期（敏感期）があり、概ねその時期に育つ機能がありますが、一方で私たちの脳の働きには代替機能や統合性があり、そこに希望を見出すこともできます。視覚情報の不十分さを、聴覚情報でカバーする、そのことに期待したい。

またこの2年間私たちは、オンラインの手法など、音楽療法実践に関するさまざまな工夫をしてきました。そこで問われたことは、音楽療法において「音楽する」ことの本質、musicking の概念やコミュニケーションとしての音楽性などであり、それらを深め、本来の音楽の機能を発揮しながら「感染防止を考慮した音楽活動」を提供してきました。この禍いの時、発想の転換に努め、さらに進化しながら世の中に発信しようではありませんか。

2022年度の研修・講習会は、オンラインと現地対面型双方の充実をめざし、第一に「オンライン研修・講習会」4月・7月・12月とそれぞれ「新規動画3本」計9本を配信する予定です。また、9月の学術大会講習会において「本部企画」として「現地対面型研修2コマ」を、また第三弾として、今年2月延期になった「現地対面型研修4コマ連続受講企画」を2023年2月に予定しております。

なお、今年度は「国家資格化への備え」や「資格更新者向け研修」の充実を意識しております。あわせて、ご期待ください。「この時」だからこそ、学びつづけることをともに励行してまいりましょう。

### I 2022年度「オンデマンド型 オンライン研修・講習会」実施計画

#### 第1期：2022年4月28日（木）～6月13日（月）配信予定

講師名	タイトル	内 容
大月友（とむ）氏 早稲田大学人間科学学術院 准教授	臨床心理学の新しい潮流：“マインドフルネス”と“アクセプトタンス”のアプローチ	臨床心理学における行動論的（認知行動論的）アプローチでは、この20年で心理的問題の理解やその支援の考え方が進化している。たとえば、1990年代では、さまざまなメンタルヘルス上の問題に対して、疾患ごとにモデル化が進められ、治療マニュアルが開発されていた。特に、各疾患の認知の“内容”に焦点を当てた介入が行われ、そのエビデンスが構築されていった。一方、2000年代以降、診断横断的（超診断的）なメンタルヘルスの理解モデルも構築されるようになり、ここでは認知の“内容”ではなくその“機能”をより焦点化するようになっている。こうした流れの中で、マインドフルネスやアクセプトタンスといったアプローチが台頭している。本研修では、このような歴史的背景とともに、こうした新しいアプローチの特徴について概説していく。
上羽（糟谷）由香氏 京都大学大学院医学研究科 客員研究員、白菊園病院 音楽療法士	第1回日野原賞受賞記念特別講演：音楽的な対話が「注意」という認知機能にもたらす影響	「注意」という機能は、認知機能の根幹をなす基本的機能であり、児童の場合、認知発達全般に重要な役割を果たします。よって、この機能に課題がある場合、学習や認知発達だけでなく、コミュニケーション能力や社会性にも影響がおよぼされます。本講座では、セラピストとクライアント間で音楽的な対話がなされる音楽療法の場において、注意がどう働き、どのような良好な変化が期待できるのか、昨秋日野原賞をいただきました拙論文「The Effect of Music Intervention on Attention in Children: Experimental Evidence (Frontiers in Neuroscience, 2020; 音楽介入が児童の注意機能にもたらす影響：実験的証拠)」で発表した実験の取り組みと得られた知見を手掛かりに考察したいと思います。私が臨床と研究の往復過程で得てきた知見が、対象者理解を深める一助となれば幸いです。



<p>平野夏子氏</p> <p>東京保健医療専門職大学 専任講師</p>	<p>コミュニケーション・ミュージカリティ理論への手引き —原初的コミュニケーション・ツールとしての音楽—</p>	<p>言語によるコミュニケーションが困難な人が「なぜか音楽だと反応する」と、他職種から不思議がられた経験のある人は多いのではないだろうか。「音楽ってすごいですね!」と言われるのは嬉しいが、何故すごいのか? その問いに答えてくれそうなのが、マロックとトレヴァーセンが提唱した「コミュニケーション・ミュージカリティ理論」である。新生児と母親の前言語的なやり取りに見られる「音楽性」に着目し、音楽の起源に関する最新の研究成果を踏まえながら、人間の音楽性とコミュニケーション能力との深い繋がりを示唆した『絆の音楽性—つながりの基盤を求めて—』(2018年、音楽之友社)は、日本の新生児医療の現場や音楽教育の分野にも少なからぬ影響をもたらした。今、音楽療法士として知っておくべき「コミュニケーション・ミュージカリティ理論」について、わかりやすく概説する。また、今回の講座のために、障がい児分野の第一人者である高山仁先生より貴重なセッション動画をご提供いただいた。高山先生へのインタビュー動画と合わせてご覧いただき、私たち音楽療法士の日々の実践に、コミュニケーション・ミュージカリティ理論がどのように関わっているのかを考えてみたい。</p>
--	---	--

**第2期：2022年7月11日（月）～8月25日（木）配信予定**

講師名	タイトル	内 容
<p>佐藤正之氏</p> <p>東京都立産業技術大学院 大学 認知症・神経心理学 講座 特任教授</p>	<p>音楽を医療に活かす：失語症に対するメロディックイントネーションセラピー</p>	<p>ほとんどのひとの言語優位半球は左側に存在する。それに対し、音楽の表出は右半球が司るとされる。左半球の脳損傷のために言語機能に障害をきたした失語症患者に対し、右半球が関与する音楽活動を用いた訓練が試みられてきた。その中で失語症の発話障害に対する有効性が確立しているのがメロディックイントネーションセラピー (MIT) である。MIT は1970年代に米国で開発された失語訓練法で、音楽のもつ拍やピッチという特性を用いて、発話の改善を図る。言語構造の異なる日本語については1980年代に関らによって MIT 日本語版 (MIT-J) として導入された。本講習では、言語の脳内機構と失語症の症候について解説した後に、MIT の手法と現時点での研究の状況について紹介する。</p>
<p>貫行子氏</p> <p>日本音楽心理学音楽療法 懇話会・会長</p>	<p>音楽の本質と幸福 (well-being) の関係を考える —音楽療法が存在する意義—</p>	<p>音楽療法は今その本質を問われる時代となり、社会的認知拡大のためには、まず音楽の本質を見極め、音楽療法への適応可能性を説明できなければならない。 前半では音楽の起源、musicking の快感、情動、自己達成感、時間芸術、生存に必要なコミュニケーション、美意識と脳科学。後半は人間の幸福とは、ポジティブ心理学、幸福を科学する (測定)、幸福感の身体的影響、最後に音楽と幸福の関係を考察する。</p>
<p>小柳玲子氏 (司会) おとむすび 恩田萌美氏 葛飾二葉幼稚園 木下容子氏 東邦音楽大学 那須貴之氏 坂本病院</p>	<p>音楽療法を支える「理論」とは—その捉え方と臨床への応用について—</p>	<p>司会：小柳玲子氏 (おとむすび) ・慢性痛患者に対する調整的音楽療法 那須貴之氏 ・対象を理解し支援するための理論的枠組み—行動分析学の視点から— 木下容子氏 ・音楽療法に役立つ感覚と運動の高次化理論 恩田萌美氏 上記の各音楽療法のモデルを紹介し、後半は各モデルにおける相違・共通点や普遍的な視点などについて意見交換の時間を設け、現場で重要になる音楽療法の多様性を確認する。 (以上、研修・講習委員会の記述) ※5月末に正式の内容が学会ホームページに掲載されます。</p>

**第3期：2022年12月19日（月）～2023年1月31日（火）配信予定**

講師名	タイトル	内 容
宮崎敦子氏 東京大学先端科学研究センター 特任研究員	未定 ※10月末に正式のタイトル・内容が学会ホームページに掲載されます。	宮崎氏は東京大学先端科学研究センターの「身体情報学」の特任研究員であり、研究のキーワードとして「音楽・リズム・認知症予防・脳科学・施設介入・運動機能・認知機能・嚥下機能・リハビリテーション」などを掲げている。音楽療法の実践・研究に重要な情報を含め、オンラインならではの充実した研修がなされるものと期待される。 (以上、研修・講習委員会の記述)
生野里花氏 野花ひととおんがく研究舎主宰、お茶の水女子大学基幹研究員、東海大学	未定 ※10月末に正式のタイトル・内容が学会ホームページに掲載されます。	生野氏は、日本音楽療法学会誌 Vol.4/No.1 2004 p.46-60において、倫理は「特別視」したり「聖域視」したりするものではなく、「わたしたちの日々の仕事の道筋を整理し、歩きやすくしてくれる知恵の宝庫」として、倫理綱領について詳しく述べている。また、『標準音楽療法入門（下）実践編』（春秋社、1998）の「第10章、音楽療法の倫理」も執筆されている。また、今回の「倫理講座」は、Dr. Cheryl Dileo の許可のもと、2021年の著作“Ethical Thinking in Music Therapy 2nd edition”に基づいて、3回シリーズで実施することとなる。ご期待ください。 (以上、研修・講習委員会の記述)
細江弥生氏 ほそえ音楽教室、音楽療法かけはしの会	音楽療法における音楽の役割： クリニカル・ディシジョンと共に考える	臨床において音楽をどう捉えクライアントに提供するかというお話を研究や臨床、理念に絡めてお話できればと思います。  (なお、内容の詳細は学会ホームページなどでお知らせします。)

◆オンライン研修・講習会 視聴料

1本 一律2,000円 申込本数の制限はありません。 また、視聴期間内であれば何度でも視聴いただけます。

◆申込み方法

- ・動画の申込み、視聴には「マイページ」の作成が必須です。学会ホームページの「オンライン研修・講習会」からお入りいただき、【マイページの作成・ログインはこちらから】ボタンから会員（非会員も）ご自身で作成ください。
- ・一度作成した「マイページ」は以後も引き続き使用できます。1人につき1マイページを作成してください。

◆受講ポイントについて

オンライン研修・講習会の取得ポイントは動画視聴1本につき、「認定申請：2ポイント」「更新申請2.5ポイント」

◆オンデマンド視聴に関する遵守事項

- いかなる方法においても「配信動画」の録画・録音、また資料等の登用は法律で禁止されております。ご注意ください。
- ※オンライン研修・講習会の講座内容についてのご質問は受けつけておりません。

**Ⅱ 2022年度 学術大会（広島）・講習会「現地対面型：本部企画」**

**2022年9月16日（金・午後）2コマ連続受講実施予定**

講師名	タイトル・主な内容（予定）	認定・更新Pt
山本 知香氏 滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センター	◎タイトル：エピソード記述で音楽療法を描く～「接面」を省察し、伝えるための質的研究～ 皆さんは、音楽療法の実践をどのように省察していますか？ その省察は、実践を理解し、人に伝える上で、役に立っていますか？感動や手応えなど、現場での実感には、豊穡な意味や価値が隠されていることがあります。ですが、第三者に伝えたり、発表したりするために客観的に記録を書こうとすると、体験にともなっていたはずの実感が、削ぎ落とされてしまうことがあります。本講で紹介するエピソード記述は、クライアントとセラピストとの「接面」における目には見えない心の動きを、その実感とともに省察するための質的な研究方法です。体験の当事者であるという、音楽療法の実践者ならではの強みを活かして、音楽療法の質的研究に一步を踏み出してみませんか？	これまでの規定に準ずる

### Ⅲ 2022年度「現地対面型：研修・講習会」

#### 2023年2月11日（土）12日（日）の実施予定

##### 1 2023年2月11日（土）東邦音大川越校舎（1日4コマ研修：4会場）

本企画は2022年2月11日実施予定であったが、コロナ感染拡大の為1年延期となった企画である。

	会 場	研修内容（予定）	認定・更新 Pt
障害児者	会場1：講義と演習 テーマ「実践と研究」 講師： 鈴木裕也氏 昭和音楽大学 飯島千佳氏 東邦音楽大学 二俣 泉氏 昭和音楽大学	第1講（二俣）「神経発達症の子どもへの音楽療法」 －複数理論の比較・論理的介入方法の選択－ 第2講（鈴木）「事例を研究にまとめるプロセス」 －神経発達症の子どもを対象とした音楽療法事例研究から考える－ 第3講（飯島）「子どものニーズに合致した活動の考案・実践のコツ」 －選曲・アレンジ・創作等を通じた音楽的な仕掛け・論理的な手続きのポイント－ 第4講（二俣・飯島・鈴木）「理論・研究・実践」－シンポジウム形式で、講師とフロアを交えての討議－	これまでの規定に準ずる
障害児者	会場2：講義と演習 タイトル：音楽療法における「動機づけ」について考える －主体的・対話的で深い関わりをめざして－ 講師：高山仁氏 たかやま音楽療法研究所	「子どもは遊びで育つ」この普遍的な事実は、彼らが「どれだけ主体的になれるか」にかかっており、何らかの事情で「自ら遊べない子ども達」に、「その遊びの場（環境）」をどう提供できるかが重要になり、さらに「知りたい・遊びたい」という欲求をいかに自然に引き出せるか、つまり「動機づけ」が決め手となる。今回の研修は、クライアント自らが主体的・対話的に関わる音楽療法の「場」を提供するための「動機づけ」理論について学び考える。第1講：理論の確認 第2・3講：理論と実践をつなぐワーク、第4講：「音楽すること」の動機づけに踏み込み、質疑応答、総括討議をする。	これまでの規定に準ずる
高齢者	会場3：研究と実践 タイトル：「音楽療法と声」 講師：羽石英里氏 昭和音楽大学	音楽療法の対象者・セラピストにとっての「声」に焦点をあてる。発声・発話、嚥下のメカニズムと相互の関連性、歌うことがもたらすリハビリテーションとしての効果、パーキンソン病の発声・発話、嚥下障害改善のための音楽療法プロトコルと演習、コロナ禍および障害の重度化に伴うオンライン・セッションの方法、音楽療法士の声のセルフケア、これらのトピックに関する討議を含む。	これまでの規定に準ずる
高齢者	会場4：ワークショップ タイトル：高齢者領域での音楽を使った身体活動、その活動の目的と効果 講師：智田邦徳氏 一般社団法人 えころん	感染症予防のため、集団での歌唱活動が制限される時代を迎え、代替として身体運動を導入する音楽療法士も多い。目的や対象者の様子に合わせた活動内容の構築以前に、音楽療法に身体活動を組み入れる必然性や、音楽と身体運動の関係について知る必要がある。今回の講義では高齢者領域での実践報告をもとに、運動の種類、目的、効果、身体への作用、音楽を使用する意味について考える。	これまでの規定に準ずる

##### 2 2023年2月12日（日）東邦音大川越校舎（1日4コマ程度の研修・講習を予定）

	講師・企画	内容（予定）	認定・更新 Pt
検討中	カーリン・シューマツハ氏（独） 考案の「AQR」についての講習（コロナ感染状況をみて企画）	考案者からの映像を用いた研修（素案） その1：AQR評価表の内容研修 その2：AQRに基づいた評価実践研修	これまでの規定に準ずる

◆本企画は検討中であり、今後のコロナウイルス感染拡大状況等により、中止、延期になる場合があります。  
詳細は「学会ニュース秋号」、ならびに、学会ホームページ（10月頃）にてご確認ください。

以上。2022年度の研修・講習会は、多彩な企画となっております。どうぞ、ご期待ください。



World Federation  
of Music Therapy

## ■ 第17回 音楽療法世界大会のご案内 ■

国際交流委員会  
委員 佐藤 久美

2017年7月につくば国際会議場で開催された第15回音楽療法世界大会から、早5年経とうとしています。東京から少し離れた土地に、国内外の音楽療法士や関連職種の方が約3000名訪れ、グローバルな研究実践交流が行われた5日間は、今も鮮明に記憶に残っています。

世界音楽療法連盟（WFMT：World Federation of Music Therapy）では3年に1度、世界音楽療法大会（WCMT：World Congress of Music Therapy）を開催しており、次回は2023年7月にカナダのバンクーバーで行われます。それぞれの文化によって音楽療法士に求められていることや活躍の場は異なると思いますが、それゆえ国内では例を見ないような研究や実践について知ることができる絶好の機会です。音楽療法士としての視野を“広げる”という意味では、これ以上の場はありません。

第17回世界音楽療法大会は、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催されることがすでに決まっています。参加登録期間が始まりましたら、追って学会ホームページでご案内いたしますので、どうぞ皆さま、Stay tuned（お見逃しなく）！

### 第17回世界音楽療法大会

開催日：2023年7月24日（月）～7月29日（土）

開催地：バンクーバー（カナダ）

〈主要スケジュール〉

2022年3月1日 演題募集開始

2022年5月31日 演題募集締め切り

2022年8月 参加登録開始

2022年10月 採択不採択通知

開催形式：対面とオンラインのハイブリッド

オンライン参加には次の二つのオプションが  
設定されます。

- ① スポットライトセッション等のライブ配信
- ② 口頭発表等のオンデマンド配信（大会後も視聴可）

大会テーマ：

Music Therapists: Reflecting, Connecting  
and Innovating in the Global Community  
音楽療法士：世界という共同体において  
考え、繋ぎ、革新していく存在

17<sup>th</sup> WORLD CONGRESS OF MUSIC THERAPY  
17<sup>e</sup> CONGRÈS MONDIAL DE MUSICOTHÉRAPIE



July 24 - 29 Juillet 2023  
Vancouver, Canada

大会ウェブサイト：<https://www.wcmt2023.org>



## ■ 支部情報（大会・講習会、総会などのお知らせ） ■

### § 北海道支部

【事務局】 〒062-0922 札幌市豊平区中の島2条1丁目3-25 カムオンビル  
Email : [jmta.hokkaido.reiwa@gmail.com](mailto:jmta.hokkaido.reiwa@gmail.com)  
支部ホームページ : <http://www.jmta-h.jp>

◎第40回北海道支部大会・講習会（オンライン）のご案内

開催日時：2022年6月12日（日）10：00～16：00

内 容：演題発表

評議員会企画「演題発表についての井戸端会議」

講演・ワークショップ「感覚統合を通じた音楽療法の可能性」柿崎次子 先生

\*詳細は、支部ホームページにて随時ご案内致しますのでご覧ください。

◎2022年度支部総会につきましては、総会資料および書面表決書を会員の皆様へ郵送し、その返信をもって書面決議を行うことと致します。会員の皆様におかれましては、ご協力いただけますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。

### § 東北支部

【事務局】 〒988-0261 宮城県気仙沼市本吉町後田137-2 佐藤方  
E-mail : [jmta-tohoku@festa.ocn.ne.jp](mailto:jmta-tohoku@festa.ocn.ne.jp)  
支部ホームページ <https://jmtathhp.wixsite.com/jmta-tohoku>

◎第22回東北支部学術大会のご案内

開催日時：2022年10月16日（日）

会 場：日立システムズホール仙台

大会テーマ：いのち “生きる 活きる” ～ひととして 音楽療法士として～

第22回支部大会は、対面&オンラインのハイブリッド開催を計画しています。安心安全を確保しながら可能な限り対面での開催を準備してまいります。状況によってはオンライン開催のみとなる可能性もあります。詳細が決まりましたら、随時東北支部ホームページにご案内いたしますのでご覧ください。

◎2022年度東北支部講習会

例年2月または3月に開催していますが、現在のところ未定です。

詳細が決まりましたら、支部ホームページにご案内いたします。

2021年度4回開催しました「おはなしcafé」を、2022年度も継続して開催する予定です。

### § 関東支部

【事務局】 〒373-0806 群馬県太田市龍舞町2210-1 ドレミ株式会社内  
TEL 0276-55-6344 FAX 0276-55-5022  
E-mail [mtkanto@jmta-kanto.jp](mailto:mtkanto@jmta-kanto.jp) 支部ホームページ <http://www.jmta-kanto.jp/>  
事務局開設時間 平日 9：30～18：00

◎第20回関東支部地方大会（栃木）のご案内

開催日時：2023年3月5日（日）

会 場：栃木県総合文化センター（栃木県宇都宮市）

大 会 長：遠山文吉

大会テーマ：人と音楽の繋がり～音楽療法の根底にある〈表現〉に焦点をあてて～

（問合せ先：詳細は関東支部ホームページをご覧ください）

新型コロナウイルスとその亜種の出現によって、これまでのような対面での開催がどのようになるのか不安定な状況での準備が始まりました。今後のコロナ禍の展開を見つめながら、基本的には対面での開催を強く望みつつも、もしかするとオンライン開催にせざるを得ないかも知れないという気持ちに駆られております。私たちは、上記の大会テーマの基に、特別講演、シンポジウム、ワークショップを企画し、さらには研究発表を充実させていく所存です。多くの方に充実した研究発表に取り組んでいただきたく、関係者一同心を込めてお待ちし、準備して参ります。

#### ◎関東支部主催研修会のご案内（オンライン講座）

2022年度日本音楽療法学会関東支部講習会

今年度、関東支部では、講習会を3回開催する予定です。昨年度のオンライン講習会がとても好評だったので、今年度もなるべく多くの関東支部会員の方に参加して頂けるようにしたいと思っております。対面講習会は、社会情勢を鑑みながら開催を考えて参ります。

2022年度関東支部講習会予定

第1回 2022年6月

第2回 2022年11月

第3回 2023年2月 or 3月

詳細は関東支部ホームページに掲載いたします。

新型コロナによる影響や状況変化に対応し、メールマガジンやお問い合わせフォームなどの活用により、会員へのサポートや情報提供等を行ってまいります。詳細は支部ホームページ等で随時ご案内いたします。

## § 信越・北陸支部

【事務局】〒386-0025 長野県上田市天神2-4-53 ジオグランドドエル602号

TEL：080-9455-5353 E-mail：mt.office2020@gmail.com

支部ホームページ：https://mtoffice2020.wixsite.com/jmtash

#### ◎第19回信越・北陸支部学術大会のご案内

日 時：2022年6月12日（日） 9：25～16：20

会場参加とオンラインライブ配信（ハイブリッド開催）

開催場所：富山県民共生センター「サンフォルテ」

大会テーマ：いま音楽療法ができること ～新たなカタチを求めて～

大会長：道下和美氏

内容：第1講：高岩亜輝子氏（言語聴覚士、福岡青洲会病院リハビリテーション部教育主任）

「明日からのコミュニケーションがこんなに変わる」

第2講：江崎雅子氏（理学療法士）、丹保博美氏・鹿熊千恵子氏（音楽療法士）

「動きから表現が生まれるとき」～理学療法士の立場から見た音楽療法～

理学療法士と音楽療法士による連携アプローチ。取り組みの紹介とワークショップ

第3講：近藤靖子氏（音楽療法士、日本臨床心理研究所）公開講座

「いま音楽療法ができること」～新たな取り組み、そして基本に立ち返って～

第4講：シンポジウム

「音楽療法の新たな取り組み」

支部学会に関するお問い合わせは、下記大会事務局までお願いします。

第19回信越・北陸支部学術大会事務局 E-mail：tsurimy0217@gmail.com

今年度からの支部役員体制は以下の通りです。

支部長：近藤清彦氏（相澤病院）

副支部長：宮本啓子氏

事務局長：高橋和奈枝氏

## § 東海支部

【事務局】〒503-8554 岐阜県大垣市西之川町1-109  
大垣女子短期大学 菅田研究室  
E-mail : jmta.tokai@gmail.com  
支部ホームページ : <https://www.jmta-tokai.net/>

東海支部では、4月に第10期から第11期に役員会が引き継がれました。支部長に渡辺恭子氏、副支部長に奥村由香氏、事務局長に菅田文子氏が新しく選出され、併せて16名の役員体制のもと東海支部の運営が行われます。また2023年度には、全国学術大会が東海地方で行われることになっており、大会実行委員会（大会長 菅田文子氏、実行委員長 伊藤孝子）を立ち上げ、徐々に準備に取り掛かっているところです。様々な場面でご協力を仰ぐことになるかと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（第10期事務局長 伊藤孝子）

## § 近畿支部

【事務局】〒561-8555 大阪府豊中市庄内幸町1-1-8 大阪音楽大学内  
E-mail : jmtak@guitar.ocn.ne.jp  
支部ホームページ : <http://www.jmtak.com/>

第21回近畿学術大会・講習会・近畿支部第23回総会について  
2023年3月にWeb開催を予定しています。

\*詳細が決まり次第、近畿支部ホームページに掲載いたします。

## § 中国支部

【事務局】〒731-0295 広島県広島市安佐北区可部東1-2-1  
広島文教大学 木村敦子研究室内  
TEL&FAX : 082-814-3161  
E-mail : jmta-cc@h-bunkyo.ac.jp  
支部ホームページ : <http://jmta-cc.org>

◎第22回支部大会は、全国大会準備のため来年度に延期といたします。  
2021年度活動資料の送付をもって、総会に代えさせていただきます。

◎この度の選挙により、支部役員が変わることとなりました。  
中国支部役員は、石井明子、岩永誠、武田千代美、中田哲也、頼島敬の5名が務めさせていただきます。  
どうぞよろしくお願い申し上げます。

◎第22回日本音楽療法学会学術大会の開催は中国支部が担当させていただきます。  
現在鋭意準備中ですが、新型コロナウイルス感染症拡大の状況によっては、開催形態が変更になる可能性もございます。大会HP、およびDMなどの情報をご覧ください。

## § 四国支部

【事務局】〒769-0303 香川県仲多度郡まんのう町七箇2616-1 栗田方

Email : sikoku.mt@gmail.com

支部ホームページ : <http://www.imta-shikoku.sakura.ne.jp/>

四国支部では、この度の代議員選挙に伴って、以下のとおり役員体制が変更となりました。

支 部 長：岩永十紀子

副支部長：上羽（糟谷）由香

事務局長：栗田京子

支部の他の役員および委員会委員等は未定です。6月頃にホームページなどでお知らせする予定です。

第17回四国支部学術大会は、

日時：2022年8月7日 10:00~16:00

場所：高知県・高知市 「CHRES レインボーホール」

大会長：上羽（糟谷）由香

実行委員長：栗 裕子

大会テーマ：「音・音楽による対話をもたらすもの」

～人は音楽療法に何をもちとめるのか～

詳細は四国支部ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。

## § 九州・沖縄支部

### 【新支部長就任挨拶】

この度、新支部長を担当いたします小林真寿子と申します。新しい事務局長池田憲治さんを筆頭に、選挙で選出された役員が、これから3年間は、総力をもって九州・沖縄支部を運営していくこととなりました。コロナ禍とかななり、活動状況が、オンライン形式になり状況が一変いたしました。本来なら、我々が目指す音楽療法とは、生で対象者の方と向かい合っって空気感を感じるものではありませんが、世の中の変化に追従しながらも、本来の音楽というものを忘れないように、活動していきたいと考えております。

何卒、3年間、会員の皆様のご協力を得ながら活動していきます。どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。

(日本音楽療法学会九州・沖縄支部 新支部長 小林真寿子)

### 【事務局より報告】

日本音楽療法学会九州・沖縄支部役員新役員

支部長：小林真寿子

事務局長：池田憲治 事務局長補佐：遠山沙希 会計：立山真由美 広報：村橋和子

教育・倫理：山下恵子・和田玲子 監事：中垣美子 監事：米倉裕子 相談役：高江洲義英

### 2022年4月より事務局が移転しました

新事務局 日本音楽療法学会九州・沖縄支部 介護老人保健施設フォレスト熊本 内

〒862-0970 熊本県熊本市中央区渡鹿5丁目1-37号

TEL 096-363-0101 FAX 096-363-3363

お問い合わせメール： [jmta9oki@gmail.com](mailto:jmta9oki@gmail.com)

### 日本音楽療法学会九州・沖縄支部のホームページ

<https://jmtakyuokimt.wixsite.com/music>

《日本音楽療法学会九州・沖縄支部 講習会 予定》

日時：2022年6月5日（日） 開催方法：オンライン

講師：青拓美 先生

《日本音楽療法学会九州・沖縄支部 2022年度大会 予定》

日時：2022年11月6日（日）10:00~16:00 場所：熊本城ホール

プログラム：①研究発表 ②講習会：(仮) コミュニティ音楽療法について 講師：井上勢津 先生



## 学会事務局からのお知らせ

### ■ 第23回日本音楽療法学会学術大会開催のお知らせ

---

- 日 程：2023年9月1日（金）、2日（土）、3日（日）
- 会 場：長良川国際会議場（岐阜県）
- 大会長：菅田文子 実行委員長：伊藤孝子 事務局長：未定
- 大会テーマ：未定

※大会案内は順次お知らせします。

### ■ 2022年度 研修・講習会開催のお知らせ

---

2022年度の研修・講習会につきましては12ページをご覧ください。

### ■ 2022年度 音楽療法士資格審査（面接試験）のお知らせ

---

2022年度の資格審査の申請期間や申請方法等につきましては、9ページをご覧ください。

### ■ 2022年度 資格更新審査のお知らせ

---

- 対象者：第2回、第7回、第12回、第17回、第22回の認定者および20年度21年度の猶予者
- 申請受付期間：2022年10月14日（金）～10月28日（金）（最終日必着）  
※猶予を申請される方も必ず受付期間に申請してください
- 最終審査結果：2023年2月初旬頃通知
- 対象となっておられる方は事務局よりお送りします申請書類（資格更新規則／同細則）にて申請してください。また、申請書（資格更新規則／同細則）を紛失された方は31ページ「各種資料取り寄せ方法」をご覧くださいの上お取り寄せください。

### ■ 2022年度 音楽療法士（補）資格審査（筆記試験）のお知らせ

---

2022年度の（補）資格試験の申請期間や申請方法等につきましては8ページをご覧ください。

### ■ 会費（年会費）納入のお願い

---

2022年度新年度が始まりました。年会費は専用の振替用紙にて早めにお納めいただきますようお願いいたします。

正会員 10,000円 学生会員 6,000円

購読会員 6,000円 賛助会員 50,000円／1口

払込先 郵便振替口座 加入者名：日本音楽療法学会 口座番号：00120-9-657711

### ■ 入会案内パンフレット取寄せについて

---

今般、学会の入会案内パンフレットを新規に作成いたしました。会員の方につきましては20部を上限としてご請求いただけます。学会ホームページ上のお問い合わせ欄、もしくはFAX・郵送にて必要部数を明記の上ご請求ください。送料や返信用封筒の送付は不要です。

### ■ 学会ホームページからの規則書閲覧について

---

学会ホームページにて各規則書の抜粋版を閲覧いただくことができます。メニューより「ダウンロード」を選択いただき、規則書ファイル（PDF）をダウンロードしてご覧ください。

## ■ 学会ホームページ「お問い合わせ」について

---

学会ホームページよりお問い合わせを受け付けております。学会ホームページや学会ニュースなどの広報媒体や認定規則書等の発行物で確認ができない事項についてご質問がある場合は、学会ホームページメニュー「お問い合わせ」より必要事項を入力して送信してください。回答はご記入いただきましたメールアドレスにメールで送信されます。尚、ご回答までにはお時間を要する場合がございますので、あらかじめご容赦ください。

## ■ 認定音楽療法士対象 ピティナとの情報共有サービスについて

---

一般の方々への「音楽療法士資格を保有するピアノ指導者」の情報提供を目的として、一般社団法人全日本ピアノ指導者協会（以下、ピティナ）との間で、学会認定音楽療法士有資格者の情報共有サービスを開始しました。条件を満たす方はピティナ Web サイト上のピアノ教室紹介ページに「音楽療法士マーク」を無料で表示することができます。ご希望の方は下記に沿ってお申し込みください。

対象者：日本音楽療法学会認定音楽療法士 かつ ピティナ会員である方。

申込方法：会員名、学会とピティナ両方の会員番号を明記の上、「ピティナ ログマーク表示希望」として学会事務局宛にメールをお送りください。

メールアドレス jmta.ptna@jmta.jp

注意事項：申し込み先はピティナ事務局ではございません。

申し込み後、ログマークの表示までに日数を要しますのでご了承ください。

認定音楽士資格が失効した場合、ログマークの表示は中止されます。



## ■ 「スーパービジョンの手引」のご購入について

---

スーパービジョン検討特別委員会編纂の「スーパービジョンの手引」が発行されています。（A 4 版60ページ、2015年 8 月発行）購入を希望される方は31ページ「各種取り寄せ方法」をご覧ください。

## ■ 「抄録の書き方」のご購入について

---

研修・講習委員会編纂による「抄録の書き方（わかりやすい学会発表をするために）」が発行されています。（B 5 版76ページ、2006年 8 月23日発行）購入を希望される方は31ページ「各種取り寄せ方法」をご覧ください。

## ■ 「音楽療法臨床ハンドブック」のご購入について

---

学術研究委員会編纂による「音楽療法臨床ハンドブック」が発行されています。（A 4 版114ページ、2019年 4 月発行）購入を希望される方は31ページ「各種資料取り寄せ方法」をご覧ください。

## ■ 〈DVD「音楽のちから2012」～音楽療法が拓く可能性～〉のご購入について

---

15分間の音楽療法の啓発 DVD が発売されています。購入を希望される方は31ページ「各種取り寄せ方法」をご覧ください。（一般の方に視聴していただくのに最適です。）

## ■ 第21回認定音楽療法士（補）試験問題解説集の発行について

---

2022年 1 月16日（日）に実施された21年度音楽療法士（補）資格審査（筆記試験）の試験問題解説集が2022年 6 月に発行されます。該当試験受験者の方には事務局からお送りしますが、それ以外で購入を希望される方は31ページ「各種資料取り寄せ方法」をご覧ください。

## ■ 学会誌バックナンバーのご購入について

日本音楽療法学会、日本バイオミュージック学会および臨床音楽療法協会の学会誌バックナンバーのご購入につきましては、学会事務局では取り扱っておりませんので下記へお問い合わせください。

〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-21 アカデミア・ミュージック株式会社

TEL：03-3813-6751 FAX：03-3818-4634

## ■ 各種資料取り寄せ方法

各種資料の取り寄せを希望される方は、郵便局にて料金分の定額為替をご購入いただき、希望資料の内容を明記した封筒（例、規則書必修講習会コース 請求）に同封の上、学会事務局までお送りください。その際、送付する為替には「なまえ」など何も記入しないでください。返信用封筒は不要です。

資料		金額（送料込）
認定規則書	必修講習会	500円
	面接試験	500円
	資格更新	500円
認定音楽療法士（補） 問題解説集	2011～21年度単年度版 ※希望年度を明記してください ※2001～2010単年度版は廃版となりました。	各1,000円
	2006～10年度、2011～15年度、2016～2020年度 五ヶ年分合冊版 ※希望年度を明記してください ※2001～2005年度五ヶ年分合冊版は廃版となりました。	各2,000円
その他	抄録の書き方	1,000円
	スーパービジョンの手引き	1,000円
	倫理ハンドブック	500円
	特別プロジェクト研究報告	500円
	音楽療法臨床ハンドブック	2,000円
DVD	音楽の力2012 ～音楽療法が拓く可能性～	1,000円
学会誌、学術大会要旨集、学術大会 講習会資料集（2018年度～）	日本音楽療法学会、日本バイオミュージック学会および臨床音楽療法協会の学会誌バックナンバー、学術大会要旨集（第15回世界音楽療法大会含む）、2018年度以降の学術大会講習会資料集のバックナンバーは学会事務局では取り扱っておりませんので下記までお問い合わせください。 アカデミア・ミュージック株式会社 〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-21 TEL：03-3813-6751 FAX：03-3818-4634	

## ■ 事務局への各種お届けについて

### ● 会員区分変更

現在学生会員の方で教育機関を卒業された方は、正会員への会員区分の変更が必要です。事務局まで文書にて区分変更の届出をお願いします。書式は自由です。正会員から学生会員へ変更を希望される場合は、学生証のコピーを添付の上、同様に事務局へ届け出てください。

※学生会員は役員選挙において被選挙権がなく、認定申請ができないとともに、学会発表を行う際に制限がある場合もございます。ご注意ください。

※認定をお持ちの方、必修講習会を受講中の方は正会員であることが必須のため、学生会員への変更はできません。

### ● 住所・名義変更

市町村の合併などを含め住所および連絡先に変更がある方、名義を変更される方は、学会ホームページから、もしくは事務局宛てに文書にて変更を届け出てください。書面で提出する場合の書式は自由です。

## ■ 各種証明書再発行手数料のお知らせ

---

学会の発行する各種証明書の再発行には、つぎの手数料がかかりますのでご了承ください。手数料分の定額為替（郵便局にて購入）を同封の上、希望の再発行内容を記載し学会事務局へお申し込みください。

- 音楽療法士（補）資格証明書、各種講習会受講証明書、学術大会参加証明書（第6回大会から）など

手数料：500円

- 音楽療法士登録証明書、賞状

手数料：2,000円

※記載の住所や名義の変更も含みます。

※3×4 cmの顔写真、現在お持ちの登録証明書と賞状を同封し、学会事務局までお送りください。

※登録証明書・賞状ともに再発行する場合も、一方のみを再発行する場合も手数料は一律2,000円です。

※名義変更の場合は、氏名のローマ字表記を必ず明記してください。

※1ヶ月程度お時間がかかりますのでご了承ください。

## ■ 音楽療法士求人情報提供のお願い

---

音楽療法士の求人情報を学会ホームページに掲載しています。有償で直接雇用のものに限定しますが、掲載を希望される際は、現在掲載されているページを参考に Word にて求人情報掲載内容を作成し、kanri@jmta.jp へお送りください。内容確認後、掲載可否についてお知らせいたします。掲載期間は3ヶ月です。なお、求人情報ページは情報を提供するだけのもので、就職の斡旋をするものではありません。